

LIFE TIMES

三菱ケミカル物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



2018年10月1日(月)発行 【季刊誌(年4回)発行】

発行部署 : 陸運事業本部 企画部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 石山 義裕

秋号
(No.136)

【目次】

1. 新生 MCLC富山支店 スタート!
2. 全国初 民間施設直結スマートインターチェンジ事業化決定
3. 国交省 自動運行船の実証事業を今年度から開始
4. MCLC小集団活動全社大会 開催
5. MCLC場所紹介 ～長浜支社 (滋賀県長浜市)～
6. 物流センターにおける先進技術の動向 ～DPL市川 見学レポート～
7. 国際物流総合展 レポート

1. 新生 MCLC富山支店 スタート!

当社は四日市支社「富山営業所」を「富山支店」へと組織改正し、9月1日より新たにスタートさせました。

同支店は、2012年4月に三菱ケミカル社(当時 三菱レイヨン社)富山事業所の物流業務一部請負開始にあたり、同事業所内に当社の富山営業所として発足して以来、請負業務範囲を拡充して参りましたが、この度、同事業所の外部倉庫を含む『構内物流業務』全般を請け負わせて頂くこととなり、営業所から支店へ改組し、体制・機能の強化を図ることと致しました。

富山支店は、既存の業務に加えて、新たに請け負わせて頂いた業務についても、これまで以上に安全で安定した物流をご提供し、そして更なる効率化を立案・実行していくことを使命としております。今後は『輸送業務』についての請負範囲を拡張していくほか、支店として、その実績を積み上げながら荷主に信頼して頂けるよう努め、北陸エリアでの新規開発など業務拡大も目指していきます。

富山支店より

“支店となり、所帯も以前の約10倍とかなり大きくなりましたが、支店長以下一丸となって、笑顔溢れるKAITEKI職場作りを行って参ります。お近くにお越しの際には富山支店へ是非一度お立ち寄りください。”



富山支店 決起懇親会にて

2. 全国初 民間施設直結スマートインターチェンジ事業化決定

国土交通省は、高速道路と近傍に位置する大規模な物流拠点や工業団地、商業施設などの民間施設を直結するスマートインターチェンジを、民間企業の発意と負担により整備する制度(*)について、整備の方針を確認する手続きと具体的なルールを2017年7月より定めて募集を行ってきました。(*施設管理者が位置や構造などの提案、整備費用を負担する制度)

民間施設直結スマートインターチェンジの認定第1号として三重県多気郡多気町に建設予定の「アクアイグニス多気」(葉草や健康、食を切り口とした滞在型の複合施設)に接続するスマートインターチェンジが2017年12月に認可され、8月23日に国土交通大臣より多気町長へ連結許可書が手交されました。

今後、2020年2月の開業を目指して多気町及び合同会社三重故郷創生プロジェクトが事業化されます。高速道路と民間施設を直結する道路の整備費用は10億円程度が見込まれています。

国土交通省は民間施設に直結するスマートインターチェンジの整備を促進するため、整備費用の一部を民間事業者が無利子で貸し付ける制度を創設することとし、2018年度予算案に盛り込みました。

民間施設直結スマートインターチェンジの名称は、当該施設名を用いることができるようになっており、標識に施設名を用いた名称をつけることでの認知度向上、高速道路を活用した企業活動の支援、地域経済の活性化を図るものとされています。

民間施設直結スマートインターチェンジは、今後、物流拠点への展開も期待される制度です。

民間施設直結IC表記イメージ



※国交省ニュースリリースより

3. 国交省 自動運行船の実証事業を今年度から開始

近年世界的に関心が高まっている自動運航船について、国土交通省は2025年までの実用化を目指して取り組みを進めています。

同省では2016年度からi-Shipping (Operation) としてIoT技術やビッグデータ解析を活用した船舶・船用機器の技術開発を支援しています。今般、これに加え安全要件の策定などの環境整備に向けて、実証事業を行うこととなりました。

今年度の実証事業は自動運航船のコアとなる下表の3機能について行われる予定で、実船試験やシミュレーション試験によって安全性の検証に必要なデータの収集などを行い、今後の安全要件策定の検討などにつなげていくこととされています。

昨今の労働力不足問題の解決策の一つとして、陸上輸送の分野でも自動運転技術は注目されていますが、海上輸送の分野でもこれら技術の進展が期待されています。

実証事業の対象	実証・検証項目例
自動操船機能	◇他船との衝突防止機能 ◇座礁予防機能
遠隔操船機能	◇現実的な遠隔操船システムのコンセプトの構築と妥当性 ◇衝突リスクの遠隔表示機能
自動離着岸機能	◇離着岸制御機能 ◇検証用シミュレーションシステム



※国交省Webサイトより

4. MCLC小集団活動全社大会 開催

小集団活動全社大会が7月13日に四日市支社において開催されました。1982年からスタートした本大会も今年で34回目を迎え、今年は126サークルが参加しました。当日は各支社、油槽所、エリア営業部から選ばれた7サークルと、当社の海外現地法人の一つであるインドネシアのPT. DIA LOGISTICS INDONESIAのサークルを加えた全8サークルによる発表が行われました。

その中から、下記3サークルが優秀賞に選出され、黒崎支社と四日市支社のサークルが、10月12日に開催予定の「三菱ケミカルグループ小集団活動発表会(Bブロック)」に当社代表として出場します。



優秀賞 (部署・テーマ)
<p>■ 黒崎支社 ■</p> <p><u>生産物流部 1課</u></p> <p>塩酸 I S Oコンテナ 洗浄工程改善</p>
<p>■ 坂出支社 ■</p> <p><u>物流センター 生産物流 1課</u></p> <p>貯炭ベルトコンベア 落骸・落粉防止対策</p>
<p>■ 四日市支社 ■</p> <p><u>物流・包材センター カーボンゴム</u></p> <p>カラー用カーボン 在庫管理方法の改善</p>

*テーマは要旨のみ記載

5. MCLC場所紹介 ～長浜支社 (滋賀県長浜市)～

長浜支社は2015年4月に滋賀エリアでの拠点である長浜支店として発足し、本年4月より旧菱和ロジテム長浜支店との統合により、新たに「長浜支社」となりました。人員は89名(滋賀営業所含む)となり、従来の包装・資材販売業務に加え陸運業務全般(輸送・生産物流など)を行っています。今後、統合によるシナジー創出を目指し支社従業員一丸となって頑張る参りますので、どうぞよろしくお願い致します!

当支社のある滋賀県長浜市は琵琶湖の北側(湖北)に位置し、美しく豊かな自然環境に恵まれ、「観音の里」「戦国の聖地」といわれるように多くの歴史文化遺産があります。

またひょうたんも有名で、長浜城主として当地を治めた羽柴秀吉(のちの豊臣秀吉)の馬印にも用いられ縁起の良いものとして伝わっており、市章にも用いられております。三つそろえば「三拍(瓢)子」そろって縁起が良い、六つ揃えば「無病(六瓢)息災」のお守りになるとされます。この縁起の良いひょうたんはなんと食用の種類もあり、召し上がっていただくこともできます。(ひょうたんのしば漬けなどがあります)

駅前には再開発によりとてもきれいになりました。「えきまちテラス長浜」は駅直結で地元の名産品(鮎ずし・のっぺいうどん・鯖そうめん・鮎佃煮・地酒・サラダパンなど)をお買い求め頂けます。

お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

えきまちテラス長浜



ひょうたんのしば漬け



(市章の説明) ひょうたんは、豊臣秀吉馬印を表し、3つの波形は琵琶湖を表すとともに、合併した1市2郡を表現している。

6. 物流センターにおける先進技術の動向 ～DPL市川 見学レポート～

8月6日に大和ハウス工業社が開発した「DPL市川」を見学しました。当施設は免震構造5階で賃貸面積約2万坪、40フィートコンテナ車両も通行可能なランプウェイ(※)もある大型マルチテナント型物流センターです。

ロケーションは東京都心部から約15kmと配送拠点として優位な場所に位置し、近隣は湾岸物流の大型物流施設が次々に開発されているエリアとなっています。

倉庫内は自動搬送ロボットなども導入されており、効率化や自動化を目指した取り組みを紹介して頂きました。

運営形態は複数の荷主企業が同一施設内で共同利用出来る従量課金制を採用しており、同社のグループ会社が物流設備、システム作業員などをトータルで提供し、荷主企業が物流サービスを利用した分だけ料金を支払う制度となっています。

初期投資コストを削減しスピーディーに物流サービスが提供出来る仕組みとなっていました。



※ランプウェイ：トラックを各階に乗り入れ、直接荷降ろし作業を行う事が可能な傾斜路

7. 国際物流総合展 レポート

9月11日～14日に東京ビッグサイト（東京国際展示場）で行われた「国際物流総合展2018」を見学しました。

隔年開催の本展示会は「ロジスティクスの今を知り未来に触れる」というテーマの下、物流のみならず幅広い業界に向けた、産業車両、運搬車両、保管機器、仕分け・ピッキングシステム、パレット、情報システム、ロジスティクスサービスなど多様な最新機器・ソリューションが展示されました。展示団体は国内外から475団体を超え、大手電機メーカーの参入もみられました。

近年の深刻な労働力不足を受け、自動化・省力化への関心が高まるとともに、AIの発展により「自律型」「労働環境対応」を指向した商品やサービスが増加しています。現実的な物流の各種ステージに於ける課題解決が一層前面に出てきました。また、デザインやカラー等で、女性作業者の現場での活躍を意識している商品が多いことも印象的でした。

今回、当社共通部門の若手社員も同伴し、フォークリフトやJRコンテナ、パレットといった物流の根幹的な機器にも間近に接することができ、印象深かった模様です。

当社としては今後も各種最新情報を収集し、働き方改革に取り組みながら“KAITEKI物流”を実現していけるよう日々精進してまいります。



編集後記

7～8月は例年なくきびしい暑さが続き、また台風が多く発生するなど、通常とは異なる天候が多い夏になりました。きびしい暑さが続いたことにより「夏バテ」した方も多かったのではないのでしょうか。

本号が発行される10月初旬は、季節は秋。秋には「秋バテ」があります。秋バテ防止として、体を冷やさないう、また無理をし過ぎないよう、気を付けて快適な日々を過ごしていきましょう。(W)